

公共交通の利便性を上げる

普段から利用している公共交通の利用者減少の問題を知り、公共交通の活性化を目指すため

問題点

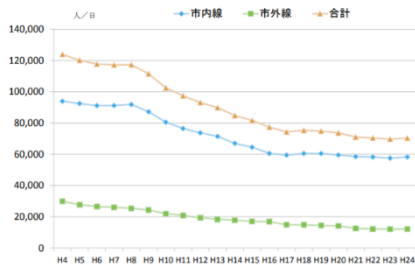


図2 乗り合いバス利用者数の推移(金沢市)

・バスの利用者はH10~17の間に20000人減少し、その後横ばいの状態となっている。

前提条件

バスのダイヤは変更しない
現状の利用者を減らさない

目標値

利用者数を30%増加

【プロジェクトの目的】公共交通の利便性を上げる

【既存策Ⅰ】 時刻表アプリ

【残存問題点】 バスの遅延に対応していない

【なぜ?①】 遅延表示に対応していない

【なぜ?②】 バスの位置情報システムと連携していないため

【なぜ?③】 アプリが放置されているから

【なぜ?④】 評価が低いから

【なぜ?⑤】 使っている人が少ないから

【真の課題Ⅰ】 アプリの使い勝手が悪いから

【既存策Ⅱ】 コミュニティバスの運行

【残存問題点】 利便性が悪いため利用されていない

【なぜ?①】 運行ルートが目的に沿っていないから

【なぜ?②】 利益が見込めないから

【なぜ?③】 利用料が100円だから

【なぜ?④】 市が運営しているから

【なぜ?⑤】 地域の人の交通の利便性をあげるため

【真の課題Ⅱ】 目的に沿った運行ルートを確保できていない

アイデア



図5 バス案内アプリUI

機能

- ・時刻表
- ・目的地案内
- ・マップ
- ・ポイント機能

メリット

- ・ユーザが得をする
- ・ゲーム感覚で、公共交通機関を利用できる
- ・乗車率が低い路線にポイントを付与することで、路線の利益が上がる

デメリット

- ・初期投資(特典)が必要となる
- ・バス車内にQRコード等の貼り付けが必要となる。
- ・バス車内で混乱等が起こる可能性がある。

・アイデアの実現化
・バスとアプリの提携

2019年度 プロジェクトデザインⅡ
クラス・チーム: EP404-3
メンバー: 高柳 僚、中村 武仁、廣瀬 大真
村松 優太、野村 亘生、笹沢 太聖
担当教員: 向井 先生